

I 学校教育目標	自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育てる
-----------------	---------------------------------------

II 前年度に残された課題 ○多様な考えを尊重して学び合うために、話し合い活動を充実させる。 ○家庭でゲームに費やす時間を読書活動に充て、本に親しむ。 ○学習の基礎基本を身に付けるため、また、探究的発展的学習推進のため、授業でタブレット端末を有効に活用する。 ○タブレット端末を生かした家庭での自主学習を推進する。 ○時間やさまりを守り、まじめな態度で落ち着いた学校生活を送る。	III 本年年度の重点課題 1. 規範意識の向上 ①友だちや先生、家の人や近所の人に、自分から進んで挨拶する。 ②約束やさまり、マナーやエチケットを守る。 ③清掃活動や環境美化活動にまじめに取り組む。 2. 主体的・対話的で深い学びの推進 ④自分の考えを説明する力を身につけ、他人と関わりながら学習を進める。 ⑤授業や家庭学習でタブレット端末を活用した教育活動を推進する。 ⑥地域と協働して子どもの学びを支える。 ⑦読書に親しみ、感性を磨く。	IV 来年度に残された課題 1. 規範意識の向上 ①集団の中において「善いこと」と「望ましくないこと、してはいけないこと」がふれない子どもを育てる。 ②身勝手な理由ではぐらかしたり嘘を付いたり、その場をしのいだりせず、自分の言ったことやしたことを素直に認めると育てる。 ③正しいことを正しいと評価して、それを隠せず表出し、善いことや正しいこととつながる集団を育てる。 2. 主体的・対話的で深い学びの推進 ①一人一人が自分の考えを発表するだけでなく、双方向での意見交換や意見交流を行う。 ②多様な意見を認め合える雰囲気作りを行う。 ③ICT機器の操作技術や知識を深め、子どもの知的理解を促すことができる授業をつくる。
---	---	---

[1]重点課題項目	[2]具体的達成目標と評価指標		[3]自己評価		[4]外部アンケートの分析		[5]自己評価		[6]学校関係者評価		
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化	評価日	中間評価		児童生徒アンケート		保護者アンケート		最終評価(成果と課題)		
			評価日	公表日	実施日	公表日	実施日	公表日	評価日	公表日	評価日
	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他
①	友だちや、登下校を見守ってくださるボランティアや保護者への挨拶ができるよう、学校で指導するとともに、家庭への啓発活動を行い「でできた」おあむねでできた」と回答する子どもを70%以上にする。	A	<p>・教職員の96.6%が子どもへの指導と保護者への啓発を行うことができた」と回答した。特に5月は今までの生活目標を変更し、4月と2か月連続で、「あむねでできた」と設定した。新学期の児童や教職員もあむねで「毎日を送っていたこともあり、生活目標が浸透せず、全ての教職員が規範意識を高める指導を行った」と答えている。しかし、それが子どもにも姿に表れず、教職員は虚しさを感じている。集団になるとルールを無視し、善悪の判断がぶれて規則もきまりも忘れし児童も増加し、どのような指導するかを模索している教員とある。</p>	<p>・前期89.3%、後期86.8%の児童が、挨拶や返事ができた」と述べている。高学年児童より低学年児童の方が挨拶や返事をしているように思われる。登下校を見守る地域の方には、児童の挨拶の様子を「明るく」「元気」と評価していた。</p>	<p>・子どもが気持ちの良い挨拶や返事をしている」と答えたのは、76.8%で、子ども「でできた」と保護者の「でできた」には差がある。子どもは挨拶する対象は「家族」「友だち」「先生」で、近所の人には進んで挨拶する。</p>	<p>・全教職員が挨拶や返事の指導ができた」と答えている。特に1年の前半は、見守りボランティアへの朝と帰りの挨拶、後半は職員室への入室時の挨拶について重点的に指導した。しかし、指導の効果が明らかになっていないと回答している。</p>	<p>・職員室入室時の挨拶の決まりについては、来年度も指導のボイントにしたい。児童は大抵一人で職員室に入室するので、挨拶をするには勇気が必要である。しかし、そのような場には身を置き、一人ででもきちんと挨拶ができる子どもを育てていこうと思う。</p>	<p>・自分からあいさつする子どもは2年間で減少しように思う。コロナ禍で、積極的に声を出す子が少なくなり、大声を出さない環境がこうした事態を招いているのかもしれない。保護者や先生にも挨拶をしない人がいるので、自らが子どもの手本になるようにしなければならぬ。</p>			
②	チャームが偏れば遊びをやめる習慣を身に付けさせる。学校生活の約束やさまり、マナーやエチケットに関する指導を、必要だと感じた時に受け持つ授業等で行う。	C	<p>・全ての教職員が規範意識を高める指導を行った」と答えている。しかし、それが子どもにも姿に表れず、教職員は虚しさを感じている。集団になるとルールを無視し、善悪の判断がぶれて規則もきまりも忘れし児童も増加し、どのような指導するかを模索している教員とある。</p>	<p>・「でできた」割合が前年度より減少し、規則やさまりを守れない子どもも多くは多人数で行動し、反抗的態度を見られなくなっている。地域ボランティアや保護者の見守りが増えてはルール破りもなくなる。教職員がめぐることを減らすことが大事である。</p>	<p>・「でできた」割合が前年度より減少し、規則やさまりを守れない子どもも多くは多人数で行動し、反抗的態度を見られなくなっている。地域ボランティアや保護者の見守りが増えてはルール破りもなくなる。教職員がめぐることを減らすことが大事である。</p>	<p>・「でできた」割合が前年度より減少し、規則やさまりを守れない子どもも多くは多人数で行動し、反抗的態度を見られなくなっている。地域ボランティアや保護者の見守りが増えてはルール破りもなくなる。教職員がめぐることを減らすことが大事である。</p>	<p>・物を大切にすることについては、継続して指導する。また、タブレット端末の破損を防ぐため、授業中は机の上を整頓し、特に水筒は学袋で置き場を決めて保管させる。</p>	<p>・「授業中に自分の身の回りを見てから帰る習慣づけをしてほしい。落し物が多くなり、先生が手付けして回収づける。持ち帰る荷物が多くなり、水筒や学袋/バッグは毎日持ってくる。体操服や給食袋、上履は金曜日に持ち帰り、月曜日に持ってくる。物が教室にあふれると落とし物や忘れ物が多くなるのは当然。荷物を減らす工夫はできないか。」</p>			
③	家庭でも学校でも身の回りの整理整頓に励み、児童の自己評価と保護者の評価、教員による評価に大きな差がないようにし、学校と家庭が一体となって取り組むを進める。	C	<p>・92.9%の教職員が身の回りの整理整頓に励み、児童の自己評価と保護者の評価、教員による評価に大きな差がないようにし、学校と家庭が一体となって取り組むを進める。</p>	<p>・「でできた」と回答した児童は前期90.3%だったが、後期には74.6%に減少した。忘れ物や落し物を減らすか、増え続ける学校の落とし物は名前が書かれていない。</p>	<p>・「でできた」と回答した保護者は47.3%と非常に心配な数値である。児童アンケートでは大きな差異があり、保護者の「でできた」でさえもない判断基準と子どものそれと大きな差異がある。</p>	<p>・整理整頓や落し物や無くし物を減らす指導が「できた」割合でできた」と答えた教職員は、前期より減少して81.5%であった。しかし、それは児童ができてきたようになってきたからかと思われる。下校後の昇降口の靴箱の乱れや落とし物の中身を見たと、それがよくなる。</p>	<p>・物を大切にすることについては、継続して指導する。また、タブレット端末の破損を防ぐため、授業中は机の上を整頓し、特に水筒は学袋で置き場を決めて保管させる。</p>	<p>・「授業中に自分の身の回りを見てから帰る習慣づけをしてほしい。落し物が多くなり、先生が手付けして回収づける。持ち帰る荷物が多くなり、水筒や学袋/バッグは毎日持ってくる。体操服や給食袋、上履は金曜日に持ち帰り、月曜日に持ってくる。物が教室にあふれると落とし物や忘れ物が多くなるのは当然。荷物を減らす工夫はできないか。」</p>			
④	まじめな清掃活動について、発達段階に合わせた児童自らがあてを設け、その達成に励む児童を70%以上にする。	B	<p>・全教職員が「児童1人1人が責任をもって清掃できるように見守り、声をかけた。」と回答した。児童の多くは給食後の掃除へのとりかかりが早い。また、一部の児童を除いて分担した仕事を熱心に行っており、指導の成果があったと思われる。</p>	<p>・前期は89.3%、後期は88.3%の児童が「真面目に掃除をした」と答えている。業43年の本校の廊下や教室は、一生懸命掃除をしてもなかなかきれいにならず、掃除のやり用斐がいようである。一方、高学年男児の一部は、掃除をしない児童を全</p>	<p>・子どもが積極的に自分の意見を言えるようになった」と答えた保護者は79.2%で、多くの保護者が子どもが話す力の向上を感じている。</p>	<p>・前期自己評価より10ポイントほど肯定的回答が下がった。子ども同士での会話での交流が制限され、活発に意見を交わし合う場がなかなか設けられず、子どもが自分自身の意見を持っていて、それを協議して深め合っていることができなかったためと考える。</p>	<p>・真面目に子どもたちが掃除をするにもかかわらず、トイレや廊下に靴の汚れがこびりついたり汚い状態になっている。「きれいにしたい」と子どもが思っている。清掃活動への意欲も増え、思いつくで、マシで靴の汚れを取るが、年に一度は業者による清掃をすることを検討する。</p>	<p>・真面目に掃除をするのは非常にうれしいことで、次年度も続けてもらいたい。</p>			
⑤	授業中に自分の考えや思いを他人の人に提示する機会があり、その意見に対して理解を得られた経験のある児童を増やす。	B	<p>・自分の意見をまとめさせて子ども同士で交流する機会を設けたという教員は82.1%だが、コロナ禍で、どのようにして交流をする場を設けたのか、教員同士で学び合う機会が必要と思われる。</p>	<p>・前期は89.3%、後期は88.3%の児童が「真面目に掃除をした」と答えている。業43年の本校の廊下や教室は、一生懸命掃除をしてもなかなかきれいにならず、掃除のやり用斐がいようである。一方、高学年男児の一部は、掃除をしない児童を全</p>	<p>・子どもが積極的に自分の意見を言えるようになった」と答えた保護者は79.2%で、多くの保護者が子どもが話す力の向上を感じている。</p>	<p>・前期自己評価より10ポイントほど肯定的回答が下がった。子ども同士での会話での交流が制限され、活発に意見を交わし合う場がなかなか設けられず、子どもが自分自身の意見を持っていて、それを協議して深め合っていることができなかったためと考える。</p>	<p>・「ロイロー」を活用して自分の考えを書き込ませ、それを大型ディスプレイに映して学級の児童全員で共有する場を授業中に設けるなど、「発表の声を聞く」活動から、それを「見る」活動へと交流や協議のスタイルを変える。</p>	<p>・感染拡大で参観は1日限りで制限したが、子どもの教室での学習の様子もあまりに静かになり、意見交換ができていない状況だった。しかし、保護者も子どもの普段の様子を知ることができた。</p>			
⑥	●学校運営協議会を年3回開催し、子どもの成長を軸として意見を出し合い、地域と学校が相互に連携し、協働して行う様々な活動を検討する。	B	<p>・1学期中は会合を2度開いた。しかしながら感染症予防対策のため、地域と学校が集まる機会が少なく、子どもの実情が分からないという声がある。新しい取組や企画で地域と交流できた学年は半数がなかった。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・72.6%の保護者が学校と地域が連携して教育活動を行っていることを知っている。特に高学年児童は家庭でのミニや調理や何回もボランティアで来ていただいた。祖父祖母のように接する子どももいた。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>			
⑦	●本に興味を持たせ、学校図書室の年間貸出冊数を15000冊以上にする。	B	<p>・74.3%の児童が「読書タイムに本に熱中できると答えている。朝の読書タイムはたった10分間だが、読書ボランティアが通年来校し、読み聞かせや本の紹介等の支援をしてくださる。図書室は児童数に比べて狭いので有効活用を考えている。</p>	<p>・読書タイムに熱中して本を読んでいる児童は70.5%いる。よって、好きな子どもも多いと思われる。</p>	<p>・保護者の56.3%が、家で読書をしている」と答えている。活字離れが進む中で、本に親しむ子どもにするには、保護者の家庭内読書が必要だと言われている。親が本に親しんでいるれば、子どもも必ず本を読むようである。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>			
⑧	●子どもたち一人ひとりに向き合うことができる教育を目指し、働き方改革を推進する。就業時間やプロックアウトの時刻、定時退勤日などを意識した勤務を行う。	C	<p>・この設問に肯定的な回答をした教職員は53.6%しかいない。働き方改革の推進のため19時がプロックアウトで、定時退勤日は設定していない。まずは通勤勤務時間45時間を超えることがないよう、職員各自が自覚し、優先順位をつけて仕事に取り組ませたい。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>	<p>・「でできた」と回答した教職員は53.6%しかいない。1学期は「でできた」と回答した児童は前期64.9%だったが、後期は72.6%に上昇した。2学期は地域の「でできた」アンケートとして発表を支えていた機会が多かったためと考える。</p>			